

Kitami Young Entrepreneurs Group

北見商工会議所青年部広報誌



TRY

2026年

5月号

北見商工会議所青年部事務局

〒090-0023

北見市北3条東1丁目25番地 北見経済センタービル6階

TEL (0157) 23-4111・FAX (0157) 22-2282

URL <https://www.kitami-yeg.jp>

北見YEGの
最新情報はこちら▶





北見商工会議所青年部
第14代会長

佐藤 典之

有限会社北進塗装工業
代表取締役

研鑽の絆 未来への飛躍

「固い結束を力に、
新たな時代を切り拓く」

日頃より北見商工会議所青年部（北見YEG）の活動に対し、地域の皆様、諸先輩方、ならびに関係諸団体の皆様には多大なるご支援とご協力を賜っておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。

この度、第14代会長を拝命いたしました、有限会社北進塗装工業の佐藤典之と申します。私は2010年に入会し、今年で17年目を迎えます。これまで多くの学びを得たこの組織で大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

令和8年、9年度は、『研鑽の絆 未来への飛躍』固い結束を力に、新たな時代を切り拓く』というスローガンを掲げました。近年の北見YEGは多くの仲間を迎え、道内でも有数の規模へと成長しました。しかし、組織が大きくなった今こそ、改めてメンバー同士の理解を深め、結束を強

固にする必要があります。

私は家業である塗装業を通じ、美しい仕上げのためには何より「丁寧な下地作り」が不可欠であることを学んで参りました。YEGにおいても、メンバー間の絆という「下地」を丁寧に作り上げることが、個々の資質向上、ひいては自社や地域の発展という「彩り」に繋がると確信しています。

令和9年度には、私たちが主管する北海道ブロック大会北見大会が控えています。この大きな節目に向け、120名を超える「ALL北見YEG」の力を集結し、一歩ずつ確実に歩みを進めて参ります。

結びに、歴史を繋いでくださった先輩諸氏、そして活動を支えてくれる家族への感謝を忘れず、情熱を持って職務を全ういたします。皆様には、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

副会長・専務理事 常務理事紹介



地域力向上委員会
担当副会長

吉岡 俊英

㈱ホテルコモンズ
ホテルパソコンニア北見支配人



持続可能な未来委員会
担当副会長

我妻 健児

キタノタミ
ディレクター



研鑽委員会
担当副会長

齊藤 孝治郎

㈱齊藤商店
代表取締役



組織力強化委員会
担当副会長

高野 昌明

㈱タカノ商事
代表取締役社長



総務広報委員会
担当副会長

福地 貴弘

㈱福地工業
代表取締役社長



専務理事

中本 典孝

㈱吉崎工業所
取締役営業部長



常務理事

下山 亮

キタイチホールディングス㈱
社長室 室長

メッセージを動画でも
お届けします▼



チームビルディングで 強い組織をつくる

2月例会は「チームビルディングで強い組織をつくる」をテーマに、北見経済センタビルにて参加者65名のもと開催されました。本例会では、力強い組織づくりに必要なチームビルディングについて学び、チャンバラを通じて参加者が楽しみながら実践的に理解を深め、組織力向上へとつなげることを目的として実施しました。

前半では、あえて目的や理論を説明せずチーム対抗のチャンバラを実施しました。その後、研鑽委員会メンバーが講師となり、チームビルディングの意義や重要性、実務への活用方法について講義を行いました。その後の講義を踏まえて、二回目のチャンバラを実施すると役割意識や声掛けが活発化し、一体感の高まりが見られました。

後半では振り返りの時間を設け、気づきやチームへの影響、自社への活用について共有し、学びの定着と実務への還元を図りました。

本例会を通じ、参加者が楽しみながら学ぶ中でチームビルディングの重要性を実感し、組織力向上に向けた意識を高める機会となりました。今後の事業活動においても、本例会で得られた学びを活かし、継続的な研鑽につながる例会となりました。



令和7年度卒業式

3月例会は、北見商工会議所青年部「令和7年度卒業式」として3月19日にホテル黒部で開催され、89名が参加しました。本年度卒業を迎えられた13名の卒業生に対し、これまで北見YEGにご尽力いただいた功績を称え、感謝と敬意の念を表するとともに、その志を次世代へと「継承」し、互いの「新たな飛躍」を誓い合う場として執り行いました。

第1部では「卒業証書授与式」を厳粛に執り行い、卒業証書と記念品、そして感謝の思いを込めた花束が手渡されました。送辞と答辞を通じて、北見YEG活動で培った経験や現役メンバーへ託す熱い思いが語られ、会場は感動に包まれました。

第2部の「継承式・祝賀会」では、YEG活動を通じて得た教訓や組織に対する熱い思いが語られ、現役メンバーがその思いを受け止め、決意を込めた言葉を返すことで、卒業生の志が次世代へと確実に引き継がれる貴重な機会となりました。本例会を通じ、現役メンバーは卒業生が築き上げてこられた伝統と想いをしっかりと受け継ぎ、北見YEGが更なる飛躍を遂げる例会となりました。



NEW FACE 新入会員紹介

4月までに新たな会員が入会いたしました。
今後大きな力となる新入会員の皆さんをご紹介します。



入会/令和8年3月
研鑽委員会
まつうら としひろ
松浦 世裕
フォーシーズ株式会社
代表取締役

フォーシーズズ松浦です。北見じまん村を運営しています。50年後の子ども達が笑顔であふれる北見をYEGで育てたいです。



入会/令和8年4月
総務広報委員会
おおたき ゆうや
大瀧 雄也
UDトラックス道東
株式会社 北見支店

YEG会員の中では最年少となりますが、北見市発展の為に尽力して参りたいと思います。



入会/令和8年4月
研鑽委員会
みなみ
南 あかり
アクサ生命保険 株式会社

アクサ生命保険の南と申します。弊社からは入会は3年ぶりの入会となりますが、わからない点も多くご迷惑おかけしてしまう事もあるかと思えます。少しでも早くお力になれる様努めますので、皆様のご指導の程よろしくお願いいたします。

日本YEG/北海道YEG 出向者紹介



日本商工会議所青年部
企画委員会 委員
堀江 雄介
㈱ジャパン保険企画
代表取締役社長

本年度、日本商工会議所青年部「企画委員会」に出向させていただきます。株式会社ジャパン保険企画の堀江雄介と申します。どうぞ宜しくお願い致します。まず初めに、令和6・7年度では会長職をお預かりし、皆様に大変お世話になりましたことに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。さて、本年度の出向先である企画委員会では、主に全国大会・全国リーダーズ研修会・ブロック大会の日本YEG三大事業において運営支援にとどめず、事業の意義や目的を主管YEG及び次年度以降の主管YEGとともに共有し、円滑な引継ぎと質の高い開催に向けた積極的な連携と伴走支援を行います。この出向における様々な事業で得られた経験を自身の学びと成長に繋げ、その経験を北見YEGに還元することで組織のさらなる発展を図ります。



北海道商工会議所青年部連合会
YEGが創る夢ある北海道会議 副議長
中井 真太郎
㈱エースクリン
代表取締役

この度、YEGが創る夢ある北海道会議(以下、夢会議)の副議長として北海道商工会議所青年部連合会(以下、道青連)へ出向する事となりました。20年目を迎える現役生活最後の務めを、北見YEGから与えていただいた事に心から感謝を申し上げます。夢会議は、若手の人材育成を目的として掲げております。これまで培った経験を活かすことで、道青連と北見YEGの架け橋となり、後輩たちの人脈形成や成長に寄与出来るよう、持てる力のすべてを出し切りたいと考えております。夢会議を通じて、北見YEGを盛り上げていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



北海道商工会議所青年部連合会
筆頭副会長兼北海道代表理事
岩本 渉
中央防災株式会社
代表取締役社長

令和8・9年度の出向理事を拝命いたしました。岩本渉と申します。出向先におきましては、北海道商工会議所青年部連合会の筆頭副会長兼北海道代表理事として活動してまいります。佐藤会長よりこのような大役をご指名いただきましたこと、心より感謝申し上げますとともに、身の引き締まる思いでございます。また、令和9年度に開催されます北海道ブロック大会北見大会、さらには北見商工会議所青年部30周年を見据え、自己研鑽に努めるとともに、北見YEG活動の支えが出来ますよう、皆様のお力添えを賜りながら職務を全うしてまいります。これからの2年間、「研鑽の絆 未来への飛躍」のスローガンのもと、青年部メンバー一丸となり、諸先輩方が築き上げてこられた北見YEGのさらなる発展と、北見市の発展に寄与してまいります。



北海道商工会議所青年部連合会
広報副委員長
福地 貴弘
㈱福地工業
代表取締役社長

2026年3月の臨時総会にて会員の皆様からご承認を頂き、北海道商工会議所青年部連合会(以下、道青連)の広報副委員長として出向する運びとなりました。道青連の広報活動への従事を通じて、来年9月に北見で開催される北海道ブロック大会に向けて広報ノウハウを学んで参ります。また、北見と北海道各地の情報連絡体制を確立し、北見YEG全体の広報活動をサポートできるよう、取り組んでまいります。この度は自己研鑽の機会を与えて頂き感謝申し上げます。この度の出向を通じてより北見に貢献出来る人間になれるよう、引き続きご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。